

見直し後の資料案(12月25日・第3回学校教育審議会資料)	前回資料(10月2日・第2回学校教育審議会資料)
<p>豊中市立学びの多様化学校のめざす方向性</p> <p>はじめに</p> <p>子どもたち一人ひとりの多様な価値観や学び方を尊重し、誰もが安心して自分らしく学べる環境づくりを実現させるため、豊中市立学びの多様化学校がめざす方向性と、その実現に向けた基本的な考え方を、以下に示します。</p> <p>1 教育目標</p> <p>(1)学校教育目標</p> <p>自分らしい歩みを重ね、人と人のつながりを大切にして学び合う力の育成</p> <p>(2)めざす姿 めざす生徒像</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 新たな学習環境で、自分らしさを見つけ、安心して学び続ける生徒 ～自分の良さや可能性に気づき、学びの楽しさを見つける～ ○ 小さな挑戦を積み重ね、次の一步を踏み出す生徒 ～一步ずつ進むことに価値を見い出す～ ○ 多様な人々と協力し、学び合いながら社会とつながる生徒 ～仲間や地域、社会とともに考え支えあう～ 	<p>豊中市立学びの多様化学校のめざす方向性</p> <p>はじめに</p> <p>子どもたち一人ひとりの多様な価値観や学び方を尊重し、誰もが安心して自分らしく学べる環境づくりを実現させるため、豊中市立学びの多様化学校がめざす方向性と、その実現に向けた基本的な考え方を、以下に示します。</p> <p>1 教育目標</p> <p>(1)学校教育目標</p> <p>夢に向かって、ともに未来を切り拓く力の育成</p> <p>(2)めざす姿 めざす生徒像</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 新たな学習環境で「なりたい自分」を見つけようとする生徒 ～自分の目標や将来像を考え、自分らしさや可能性を発見する～ ○ 夢に向かって行動する生徒 ～見つけた夢や目標に向かって主体的に行動し、挑戦し続ける～ ○ ともに未来を切り拓く生徒 ～協力し、支え合いながら、困難を乗り越えて未来を創造する～

めざす学校像

- 子ども一人ひとりのペースと気持ちに寄り添う学校
～安心できるカリキュラムと環境～
- これまでの経験を肯定的に生かせる学校
～経験を強みに変える場所～
- 学び方や過ごし方を柔軟に選べる学校
～「どこで、何を、どのように学ぶか」を自分で選べる仕組み～
- 地域や社会と協働し、つながりを広げる学校
～仲間や地域とともに学び合う場をつくる～

めざす学校像

- 子ども一人ひとりのペースと気持ちに寄り添うカリキュラムと環境が整備された学校
- 不登校を経験した子どもが、その経験を肯定的に生かせる学校
- 仲間とともに学び合い、支え合う関係性を大切にする学校
- 「なりたい自分」をともに見つけ、めざすことができる学校

めざす教職員像

- 生徒に安心感を与え、寄り添える教職員
～信頼と安心を届ける存在～
- 生徒の自己選択・自己決定を尊重し、伴走できる教職員
～ともに考え、歩みを支えるパートナー～
- 専門性を発揮し、興味を引き出す授業づくりができる教職員
～学びを広げるプロフェッショナル～
- 多様な学び方や新しい取り組みを柔軟に取り入れ、変化に対応できる教職員
～挑戦を楽しみ、進化し続ける柔軟性～

めざす教職員像

- 生徒一人ひとりの状況やニーズに寄り添い、安心感を与えられる教職員。
- 生徒の主体的な自己選択・自己決定を尊重し、ともに考え伴走できる粘り強さを持っている教職員。
- 学習進度を的確に把握し、興味を引き出す授業づくりに努める専門性と探究心を持っている教職員。
- 合科的授業やICTの活用、ソーシャルスキルトレーニング（SST）などに取り組むことができる教職員。
- 前例のないことや変化を柔軟に受け入れ、対応できる教職員。

2 学校づくりのコンセプト

令和6年度、豊中市の不登校児童生徒は過去最多となり、全国的にも大きな課題です。本市では、校内教育支援センターや教育支援センターを中心に、子どもたちが安心して過ごせる居場所づくりを進めてきました。こ

2 学校づくりのコンセプト

令和5年度（2023年度）、豊中市の不登校児童生徒は1,020人で、前年度よりも121人増加し、過去最多となりました。不登校児童生徒への対応は、全国的にも大きな課題となっているのが現状です。

うした状況を踏まえ、文部科学省「誰一人取り残さない学びの保障に向けた不登校対策 COCOLO プラン」を背景に、生徒一人ひとりに応じた学びを保障する新しい選択肢として「学びの多様化学校」を開校します。

この学校では、子どもが「どこで、何を、どのように学ぶか」を自分で選ぶ環境を整えます。学び方は一つではありません。個別にじっくり取り組む時間と、仲間や地域とつながりながら学び合う時間の両方を大切にします。まずは小さな一歩を踏み出すことに意味があると考え、子どもが「やってみよう」と思える安心感のある場をつくります。

さらに、市内の中学校、義務教育学校、教育支援センター（いぶきの創造活動）としっかり連携し、子どもたちが無理なく学びを選ぶ柔軟な仕組みを整えます。地域や社会とのつながりを広げながら、さまざまな人と協力し、学びを深める機会を増やしていきます。少人数での授業を取り入れ、専門職員とともに、一人ひとりに寄り添ったきめ細やかな取組みを進めます。

3 不登校児童生徒への支援の基本的な考え方

不登校は、子ども一人ひとりの心や体の状態、学校や家庭の環境、人間関係など、いくつもの要因が重なって誰にでも起こりうることです。だからこそ、子どもの気持ちを丁寧に受け止め、子どもが安心できる環境を整

本市では、学校内では、教室に入りづらい児童生徒が安心して過ごせる居場所として校内教育支援センター（いわゆる別室）を設置し、新たに不登校にならないための、また不登校傾向のある児童生徒が登校しやすくなるための支援を行い、学校外では、児童生徒課創造活動係（教育支援センター）を中心に総合的な不登校対策を進めてきました。

不登校の要因や状態が多様化する中、令和5年3月、文部科学省がとりまとめた「誰一人取り残さない学びの保障に向けた不登校対策 COCOLO プラン」を背景に、生徒一人ひとりに応じた学びを保障するための選択肢の一つとして、新たに「学びの多様化学校」を開校します。

本学校では、『新たな学習環境で「なりたい自分」をさがし、その夢に向かって「ともに」未来を切り拓く力の育成』をめざし、教育支援センターと共同して開校準備を進めています。さまざまな背景や経験を持つ子どもたちが、安心して自分らしく学べるよう、「どこで、何を、どのように学ぶか」を、生徒が主体的に選択できる環境を整えていきます。また、学習面においては、少人数指導や個別指導を取り入れながら、なかまとともに成長し、社会とつながり続ける力や、未来を切り拓く力を育成するため、充実した教員や専門職員を配置し、きめ細やかな取組みを行っていきます。

3 不登校児童生徒への支援の基本的な考え方

不登校は「問題行動」ではなく、誰にでも起こりうるものであり、子ども一人ひとりの心身の状態や、学校生活・家庭環境、人間関係など、様々な要因が複雑に絡み合って生じるものとされています。不登校児童生徒に

え、学び方や過ごし方を選ぶ仕組みをつくり、「自分で選んだ」という子どもの実感を大切にします。

保護者とのつながりも欠かしません。家庭と学校が一緒になって子どもを支える体制をつくります。教職員は、子どもの小さな変化を見逃さず、専門職員や関係機関と協力しながら、きめ細やかな支援を行います。学習のサポートだけでなく、心をほぐす時間や、地域と関わる体験活動も取り入れます。

この学校では、「まずは一歩を踏み出す」ことを大切にします。小さな成功体験を積み重ねることで、子どもが自分らしく成長し、社会の一員として自立していくよう、生活面・学習面・人間関係の力を育みます。私たちは、子どもが安心して社会とつながり、未来に向けて自分のペースで歩んでいくよう、そっと寄り添いながら伴走します。

「4具体的な取り組み」については、別添参考資料「豊中市の学びの多様化学校のめざす姿の実現に向けて」として提示

する支援においては、子どもが置かれている状況を理解し、子ども自身の意思や気持ちを尊重することが何よりも大切です。

そのため、まずは子どもの気持ちに寄り添い、安心して自分のペースで過ごせる環境を整えることが重要です。また、「学校に登校すること」のみを最終目標にするのではなく、子ども自身が自分のよさに気づき、主体的に将来の進路や生き方を考え、社会的な自立をめざせるよう、あらゆる選択肢を提供することも重要です。子どもたちの「意思」を大切にしながら、自分らしく成長し、社会の一員として自信をもって歩んでいくよう、学校と保護者が連携し、子どもたちに伴走していきます。

4 具体的な取り組み

「(1) めざす教育」などの4つの中項目と「①安心して学べる『新たな学習環境』の提供」など16の小項目を記載。